

S E T A G A W A

# 瀬田川



# の環境



ecosystem  
setagawa

瀬田川  
の環境

国土交通省  
琵琶湖工事事務所

## 瀬田川とは

瀬田川は、琵琶湖からの唯一の流出河川であり、大戸川や三田川などの支川と合流して大津市内を南下し、天ヶ瀬ダムに流入します。河川延長は7.5km、流域面積は7.4km<sup>2</sup>です。

瀬田川には、洗堰が設けられています。これより上流側では、ほとんど水の流れはなく、琵琶湖の一部のような環境となっていますが、下流側では、洗堰ゲートの操作によって流量が大きく変動します。



新洗堰(瀬田川洗堰)



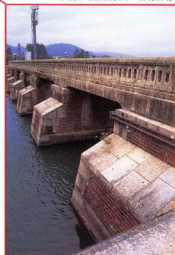
## 瀬田川の治水

瀬田川の流れ、ひいては琵琶湖の水位は、南郷に設置された洗堰によって計画的に調整されています。

旧洗堰(南郷洗堰)は、明治38年につくられたもので、現在も一部が保存されています。

新洗堰(瀬田川洗堰)は、昭和36年に完成したもので、大規模な流量調整を行う本堰と、小さな流量を精度高く調整するバイパス水路からなっています。

旧洗堰(南郷洗堰)一部分保存



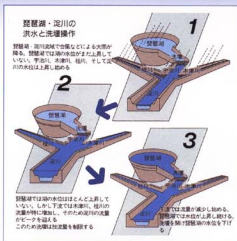
瀬田川は、天ヶ瀬ダムを過ぎると宇治川となり、桂川や木津川と合流して淀川となります。淀川は、大阪の都心を貫流するため、その洪水対策は非常に重要です。

淀川の洪水は、主に瀬田川(宇治川)、木津川、桂川の増水によって起こります。しかし、瀬田川の上流は巨大な琵琶湖であるため、水位の上昇は他の川よりも遅くなります。

そこで、まずは瀬田川の流れを止め、木津川と桂川の水を流した後に、洗堰を開けて琵琶湖の水を流すことで、淀川の急激な増水を防止しています。



(洗堰上流域の工事風景)



また、洪水対策の一環として、瀬田川の流下能力を確保するため、継続的に河道の掘削工事が行われています。

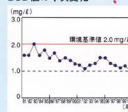


(洗堰下流域の工事風景)

## 瀬田川の水文

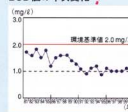


BOD値の年次変化



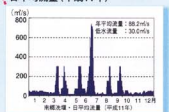
瀬田堰橋におけるBOD値は、概ね低下傾向にあり、最近では1~1.5mg/lで推移している。

BOD値の年次変化



洗堰直下におけるBOD値は、概ね低下傾向にあり、最近ではば1.0mg/lの値で安定している。

日平均流量(平成11年)



瀬田川の流量は、洗堰の操作によって決まるため、複雑な変動することなく計画的に放流されています。

# これからの瀬田川

## 生き物に配慮した川づくり

瀬田川では、渓谷となっている鹿跳橋付近を除き、そのほとんどが人工護岸となっています。現在、護岸の前面に土砂が堆積し、湿生草地のみられる場所もありますが、護岸の設置や補修の際には、多自然型工法を導入するなど、より生き物の生息に望ましい川となるように配慮することとしています。



## 水辺とのふれあい

流れの緩やかな洗堰上流ではレガッタやボート、洗堰下流の急流域ではカヌーといった利用がみられるほか、鹿跳橋付近の渓谷部では余暇を過ごすレクリエーション利用も多く、水辺と親しみやすい川となっています。



(レガッタ)



(親水利用)

瀬田川は、単に治水や利水機能のみならず、生き物の生息場所としての機能、さらには親水機能を備えた豊かな川として、将来の世代に受け継がれていくことを目指しています。

国土交通省 近畿地方整備局  
琵琶湖工事事務所

平成13年3月発行

〒520-2279 滋賀県大津市黒津4丁目5番1号

TEL 077-546-0844 (代表)

ホームページ <http://www.kkr.mlit.go.jp/biwako>



# 1

## 瀬田唐橋付近



**カサスケ**  
ヨシ原の緑など水辺の湿った場所に生育する。初夏に穂をつける。

春夏秋



**チカラシバ**  
高水敷の踏み跡など荒れ地に多く、秋に大きな穂をつける。

夏秋



**キショウブ**  
水辺に群生し、初夏に黄色の大きな花を咲かせる。

春夏秋



**ユリカモメ**  
川の上や橋の周辺など至るところで群れて飛んでいる。

冬



**ベニシジミ**  
草地の低い位置をはうように飛んでいる。幼虫の食草はスイバなど。

春夏秋



**セグロアシナガバチ**  
河川敷の草地などでみられ、蜂の幼虫などを捕食している。

夏秋



**ノシメトンボ**  
水辺の明るい草地に飛来する。羽先が茶色の赤とんぼ。

夏秋



**モツゴ**  
泥底の淀みに生息し、付着藻類やユスリカなどを食べている。

通年



**セタシジミ**  
琵琶湖固有種で、湖岸や河床の砂礫や砂泥に生息。近年減少。

通年

# 2

## 瀬田川洗堰上流



**ヒドリガモ**  
水面で休息する様子がよく観察される。種子や水草などを食べる。

冬



**トビ**  
瀬田川の上空を1羽〜数羽で旋回し、獲物を探している。

通年



**ムクドリ**  
河川敷の木などに群れている。夜は集団でねぐらをつくる。

通年



**ジョウビタキ**  
枯れ木の上など高いところによく観察される。胸の橙色が目立つ。

冬



**ゴイサギ**  
夕間の中、グワッという鳴き声とともに飛んで行く。夜行性。

通年



**カワヨシノボリ**  
潤や平瀬の流れのゆるやかな場所に生息し、藻などを食べている。

通年



**ビワヒガイ**  
砂礫底に生息し、ユスリカや藻類などを食べている。

通年



**ナマズ**  
日本全国に分布し、夜行性で、魚やカエルなどを食べる。

通年



**サワガニ**  
日本特産のカニで、生息場所によって甲の色が多様である。

通年





# 瀬田川 生き物地図

瀬田川洗堰より上流部では、流れが非常に緩い止水環境となっており、また兩岸はそのほとんどが人工護岸化されています。一部、護岸の前面に堆積した土砂上などに湿生の植生が成立しています。

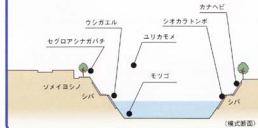
洗堰より下流部では、ゲート操作によって水量が大きく変動する区間で、水量によっては、潮や淵、ワンドなど多様な環境が形成されます。また、鹿跳橋付近は渓谷となっており、底質は岩盤となっています。



## 動物の生息環境・模式図

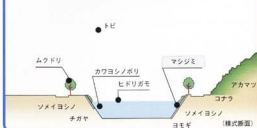
### 1 瀬田唐橋付近

兩岸に草地があり、堤防上にサクラ等が植栽されているが、駐車場等人工地が多く、植生は貧弱である。水域は、洪水時以外はほとんど流れがなく、底質は砂や泥が多い。



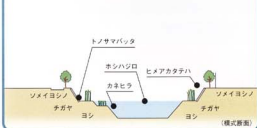
### 2 瀬田川洗堰上流

岸辺はコンクリート護岸が連続するが、堆積した土砂上や水辺に植生が成立し、ヨシ、マコモなどがみられる。水域は、洗堰の上流部のためほとんど流れはなく、底質は砂や泥が多い。



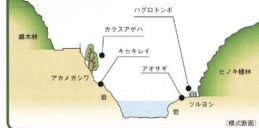
### 3 瀬田川洗堰下流

兩岸ともにコンクリート護岸であるが、草地や植栽帯もみられる明るく開けた環境となっている。水域は、早瀬、平瀬、淵など多様性に富むが、洗堰の放流量に左右される。底質は小礫が主体である。



### 4 鹿跳橋付近

岩盤が露出し植生は貧弱であるが、堆積した土砂上に植生が成立し、その背後の山腹にかけて落葉広葉樹などの樹林が連続している。水域は、流速が早く、水深は深い。一部に淵やワンドもみられる。





### 3

## 瀬田川洗堰下流



**クス**  
高水敷などで普通にみられる。他の植物を覆い群生する。

夏秋



**ホシハジロ**

水面で群れて休息する。潜水して水草を食べる。

冬



**キンクロハジロ**

他のカモに混じり、水面で休息する様子がよく観察される。

冬



**トノサマバッタ**

河川敷の草地や荒地で普通にみられる大型のバッタ。

夏秋



**ヒメアカタテハ**

河川敷の開けた草地などでみられ、よく移動する。

春夏秋



**ギンヤンマ(幼虫)**

水草の群落内に生息している。成虫は春～秋にみられる。

通年



**カネヒラ**

流れのゆるやかな水域に生息する。藻類や水草を食べる。

通年



**コウライモロコ**

流れのゆるやかな砂礫底に群泳している。雑食性である。

通年



**マシジミ**

全国の河川に生息する貝で、5cmを超える個体もみられる。

通年

### 4

## 鹿跳橋付近



**アカメガシワ**

川岸の比較的乾燥した場所に生育する。葉が大きく目立つ。

通年



**コバノミツバツツジ**

渓谷の林内に生育しており、春には赤紫の花を咲かせる。

通年



**アオサギ**

水辺に羽ざつたずむ様子がよく観察される。大型のサギ。

通年



**イノシシ**

渓谷部では山林が川に迫っているため、時折観察される。

通年



**オナガサナエ**

中型のサナエ。幼虫は、流れの早い川底の礫間などに生息している。

夏



**タモロコ**

流んだ水域に多く、イトミズなどを食べている。

通年



**タイリクバラタナゴ**

アジア大陸原産の帰化種。ニホンバラタナゴとの交雑が進む。

通年



**カワムツ(B型)**

流れのゆるやかな淵に生息する。藻や水生昆虫などを食べる。

通年



**ヌマチチブ**

水水域の礫底に多く生息する。つくだ煮の材料になる。

通年

平成7～11年の河川水辺の国勢調査を参考に作成。記載した動植物は、代表的なもの。なお、各種の季節表示は、最もよく観察できる時期を示した。

# これからの瀬田川

## 生き物に配慮した川づくり

瀬田川では、渓谷となっている鹿跳橋付近を除き、そのほとんどが人工護岸となっています。現在、護岸の前面に土砂が堆積し、湿生草地のみられる場所もありますが、護岸の設置や補修の際には、多自然型工法を導入するなど、より生き物の生息に望ましい川となるように配慮することとしています。



## 水辺とのふれあい

流れの緩やかな洗堰上流ではレガッタやボート、洗堰下流の急流域ではカヌーといった利用がみられるほか、鹿跳橋付近の渓谷部では余暇を過ごすレクリエーション利用も多く、水辺と親しみやすい川となっています。



(レガッタ)



(親水利用)

瀬田川は、単に治水や利水機能のみならず、生き物の生息場所としての機能、さらには親水機能を備えた豊かな川として、将来の世代に受け継がれていくことを目指しています。

国土交通省 近畿地方整備局  
琵琶湖工事事務所

平成13年3月発行

〒520-2279 滋賀県大津市黒津4丁目5番1号

TEL 077-546-0844 (代表)

ホームページ <http://www.kkr.mlit.go.jp/biwako>